

第7節 浴室のお手入れ

浴室は大量の水蒸気が発生するため、結露による木部の腐朽、カビの発生などの恐れのある場所です。水分だけでなく石けんかすや汚れもカビの原因になりますので、いつも清潔に保ちましょう。

広く普及しているFRP(繊維強化プラスチック)でできたユニットバスは、表面や目地を傷つけたり変色させたりする場合があるので、浴室用の洗剤・洗剤・カビ取り剤を使用し、また、研磨剤や硬いたわしなどは使わないようにしましょう。

日常のお手入れ

こまめに掃除することで、いつも清潔に保て、しつこい汚れがこびりつくこともありません。浴室使用後は浴室全体にシャワーをかけ、石けんかすや皮脂を洗い落とし、水分をできるだけふき取り、カビを防ぐために換気扇を回しましょう。

▶床

浴室の床は、石けんかすや皮脂による汚れが付きます。浴室用洗剤を使って落としましょう。

▶排水口

浴室の排水口には、毛髪などが排水パイプに侵入するのを防ぐごみ受けが付いており、その下に排水トラップが設けられています。毛髪や石けんかすなどがたまるとう排水不良を起こすことがあるので、こまめに掃除しましょう。

▶壁、天井や浴槽

浴室用洗剤を用いて、石けんかすや皮脂の飛び散りによる壁、天井や浴槽の汚れを洗い流しましょう。浴槽の水面にあたる部分は皮脂汚れが溜まりやすいので、しっかり洗うことを心掛けてください。併せて、ドア、窓、照明、鏡、風呂蓋、収納棚など浴室全体を掃除しましょう。掃除の後は、ドアや窓を開放し、通風をよくして乾燥した状態を心掛けましょう。

壁、天井、目地やシャワーホースに黒カビが付くことがあります。市販のカビ取り剤を使って落としましょう。

▶換気乾燥機

浴室全体で、換気、衣類乾燥、暖房などの機能を持ったシステムは、壁掛け式や天井カセット式のいずれも、フィルターを取り出し、ほこりなどを掃除機で吸い取り、汚れが目立つ場合にはぬるま湯に浸した布で汚れをふき取ります。

本体の汚れが目立つときには、ぬるま湯につけた布を固く絞って表面をふき取ります。

重曹を用いたナチュラルクリーニング

古い歯ブラシに重曹をつけてタイル目地を磨くと黒ずみが取れます。また、重曹で磨くとシャワーヘッドや蛇口も光沢をよみがえらせることができます。さらに、浴槽のお湯に重曹を大さじ2~3杯入れるとお風呂のお湯が軟らかくなり、湯あか防止にもなります。

浴室のピンク色の汚れの正体は

浴室のピンク色のぬるぬるした汚れは、空気中に存在する霊菌(セラチア菌)という細菌やロドトルラと呼ばれる酵母菌の一種が付着し繁殖したためです。放置しておくと、黒カビも出てきてしまうので、浴室用中性洗剤とスポンジでよく洗い落とします。さらに、キッチンペーパーにエタノールを含ませてふき取るのも効果的です。予防には換気をよくし、頻りに清掃して雑菌などの栄養分である汚れを取り除きましょう。

一般財団法人住宅金融普及協会

住まいの情報 住まいの維持管理「浴室のお手入れ」

https://www.sumai-info.com/information/follow_up51.html



第8節 トイレ・洗面所のお手入れ

POINT 01 トイレ

悪臭の発生は、封水(P112参照)が少ない、器具がぐらついてすきまが生じているなどの原因が考えられます。各部位を確認しましょう。また、換気扇が正常に作動することも確認しましょう。

日常のお手入れ

▶手洗付きタンク

手洗付きタンクの受け皿、タンクレスの場合の手洗いボウルの水あかは、トイレ用洗剤やクリームクレンザーを使ってふき取りましょう。この汚れは、カルシウムやカルキ(次亜塩素酸カルシウム)などの石灰成分などが堆積した金属汚れが主で取れにくい汚れなので、通常の掃除できれいにならない場合には、キッチンペーパーを、クエン酸を溶かしたお湯で濡らし、汚れている箇所にあてて、30分位湿布します。時間を置くことで汚れが浮いてくるので、その後に、少し硬めのスポンジなどで優しくこすってみましょう。それでも、まだ汚れが気になる場合には、同じ工程をもう一度繰り返しましょう。

また、梅雨時や湿度の高いときにはタンクが結露して、その水滴はカビの原因になりますので、こまめに水滴をふき取りましょう。

▶便器

便器は市販のトイレ用クリーンペーパーなどで、日常的にこまめに掃除するようにします。また、定期的に(1か月に1回程度)念入りに掃除します。ふつうの汚れには洗剤をかけ、しばらく放置した後、ブラシやスポンジで軽くこすり落とします。汚れがひどいときには、クリームクレンザーをブラシや布につけてこすります。

蓋の裏側の黒ずみ汚れは静電気ですいたほこりですから、キッチン用の中性洗剤を100倍程度に薄めた液でふき取ればキレイになります(仕上げに柔軟剤を塗っておくと汚れにくくなります)。便器のふたは取り外せる機種もありますので、説明書を確認しましょう。

防汚加工を施した便器や、素材が陶器ではなく樹脂(有機ガラスなど)のものがあります。表面が傷つきやすく、通常の便器に使用する洗剤、クレンザーやブラシ等が使用できない場合がありますので、メーカーの説明書をよく確認するようにしましょう。

▶便座

便座の汚れは、週に1回を目安に、水でぬらした柔らかい布を十分に絞り、トイレ用洗剤やキッチン用中性洗剤を含ませて全体をふきます。

▶洗浄機能付便座

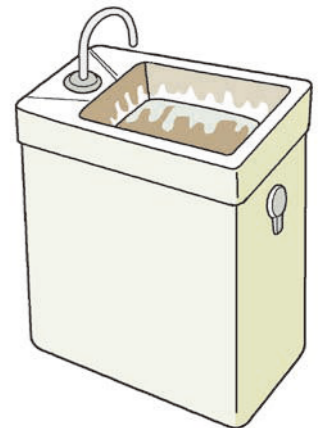
日頃から電気コードのねじれや、接続部分の緩みがないよう注意し、数日間使用しないときは本体の水と電源プラグを抜いておきましょう。

また、製品が凍結すると内部の部品が破損し水漏れの原因になるので、冬季に凍結の恐れがあるときは、水を抜いておきましょう(便器の種類によって、水抜きの方法が異なりますので、メーカーの説明書を確認して正しく行いましょう)。

操作のタッチパネルは、割り箸に布を巻きつけたものや綿棒に洗剤を含ませて汚れを取り除きます。

便座に脱臭機能が付いている場合、脱臭カセットにほこりがつくと効果的な脱臭性能が得られません。効果が弱くなったり脱臭音が大きくなったら掃除機でほこりを取り除き、脱臭吸込口の詰まりを歯ブラシで取り除きましょう(脱臭カセットの寿命は目安として7年程度です)。

その他、水のイオンの力を活用した除菌、特別な水流による汚れ落としなど、エコや衛生面で優れた点をもつ様々な商品が開発されており、これらの製品では日常のお手入れが軽減されます。



においの原因となりやすい、便器の折り返した部分は使い古しの歯ブラシなどでキレイに。